



春休み直前号しらほだい 令和4年3月24日(木)

校 訓 やさしく かしく たくましく

「顔晴れ！しらっこ果樹園」

内灘町立白帆台小学校 校長 岡田 秀



卒業式の日を境に、ぐっと春めいてきて、河北潟の周囲にもキクザキリュウキンカという黄色の小さな花がたくさん咲き始めていました。サクラよりも一足先に咲き始めて春を教えてくれる可憐な花です。

さて、今年度の修了式ではプール横の果樹について話をしました。これは、昨年10月23日(土)に白おやの会の方々と先生方の協力の下に植樹されたものです。ブルーベリー、ミカン、レモン、イチジク、ビワ。それぞれ2本ずつ計10本が植えられました。今日の式では、これらの果樹が植えられた2つの理由と1つの願いについて子どもたちに伝えました。

1つ目の理由、それは単純に『楽しい』からです。いろいろな果物が食べられると美味しく嬉しくなりますよね。食べられない、食べるのが苦手という人にも、果実は勿論花や葉の様子で季節感を楽しむことができますよね。「ああ〇〇の実ができる季節になったな…」なんて感じられると、素敵だと思ったからです。2つ目の理由は、たくさんの方の『学べる』ことです。ミカンにはアゲハチョウがやってきます。卵から成虫までの一生を見ることができます。そうすると、アゲハチョウとしての生きるための工夫や命について学ぶことができます。また、イチジクには他の果樹と違って花が見当たりません、無花果と書くくらいですか。ではどうしてイチジクには花がないの？本当はないの？子どもたちの追究意欲を引き出すかもしれません。他にも家庭科の調理実習にも使えるかも…など多くの事を学ぶ機会になると思っただけです。

そして願いです。それは、果樹を通して私から子どもたちへのささやかな願いなのです。それぞれの樹木は、冬の寒さや夏の暑さを乗り越えて、年々その根を張り幹を太くします。そして多くの枝葉をつけ、たくさんの花を咲かせ、たわわに実を結びます。そんな頼もしい果樹の成長に、子どもたちの成長が重なって見えるからです。子どもたちひとりひとりの夢や希望が叶えられることを、根、幹、枝、葉、花、実、それらひとつひとつに託したいと願ったからです。

最後にこの果樹園に名前をつけました。たくさん子どもたちが応募してくれた言葉をつなぎあわせて、白帆台小学校らしい名前をつけました。



『顔晴れ！しらっこ果樹園』。たくさん子どもたちの思いを受けて、しっかりと根付いた大きな樹木に育ってくれることと思います。

私事で申し訳ありません。今回の学校便りが私にとっての最後の便りとなります。つたない文章と内容ではありましたが、これまで読んでいただきましたことに、感謝申し上げます。そして、本校の教育活動において多岐にわたりご理解とご協力を賜りましたことに、重ねて感謝申し上げます。

明るく元気な子どもたちのこと、熱心で行動力のあるPTA並びに保護者の皆様のごこと、温かく協力的な地域の皆様のごこと、さらには美しく開放的な校舎のごことや豊かな景観で自然溢れるこの白帆台の地を、これからもずっと忘れることはないと思います。

本当にありがとうございました。深く深く感謝申し上げます。